

思いますので。

○議長（堀江 政武君） 入江議員に申し上げます。個人名、〇〇〇〇〇名前が出ましたので、取り消してください。（「わかりました」と呼ぶ者あり）取り消しますと言ってください。自分から取り消す意思はないですか。

○議員（3番 入江 有紀君） 取り消します。

○議長（堀江 政武君） はい。

○議員（3番 入江 有紀君） 以上で終わります。

○議長（堀江 政武君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

.....
○議長（堀江 政武君） 暫時、休憩します。再開は11時からとします。

午前10時48分休憩

.....
午前11時00分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） おはようございます。17番、新政会の大部です。

このたびも、清く正しく美しくを目標に頑張ります。このことは、あまり言うなという同僚議員もおるんですけど、あくまで目標ですので言わせていただきます。

今回は2つの一般質問です。

まず、自然災害、または、自己の責めによらない理由のへい死した養殖魚介類への処理費の助成についてと、2つ、対馬病院のすぐ前の十字路は非常に危険です。信号機の設置をお願いしますという2つの質問に入らせていただきます。

通告書に従いまして、2つの質問をさせていただきます。

自然災害、または、自己の責によらない理由のへい死した養殖魚介類への処理費への助成について。

ことし9月1日と9月18日の50年ぶりという大雨に、対馬島内では考えられないほどの災害が発生しました。陸では、崖崩れに家屋の崩壊、また、川の氾濫等信じられない被害でした。海でも大雨と赤潮により、今、対馬唯一の基幹産業と言っても過言ではない養殖マグロが大量にへい死をしました。そのへい死したマグロの処理費は全てが自己負担でしたが、今後、自然災害でへい死した養殖魚介類への処理費の助成はできないのでしょうか。ほかの市では、豊かな海づくり事業補助金等を交付しておるところもあります。

市長のお考えをお尋ねいたします。

2つ目、対馬病院前の十字路は非常に危険です。信号機の設置についてをお尋ねします。

ことしの5月17日に開院した対馬唯一の対馬病院です。25の診療科があり、患者さんが多いのと、それに伴い、お医者さん、また看護師さん等、職員だけでも444名もおります。当然ながら、通勤に、患者さんの車で大混雑をしております。国道沿いから病院に行く車、樽ヶ浜のほうから来る車、渡海船のほうに行く車、今度は病院側から帰る車等で非常に危険です。

現在では、対馬島内では一番危険な、危ない十字路だと思います。もう既に何件もの事故が発生をしております。死亡事故が起きていないのが幸いです。この危険な十字路に一日も早い信号機の設置ができないか、お尋ねをいたします。よろしくをお願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 大部議員の質問に答えさせていただきます。

1点目の魚介類の養殖につきましては、対馬ではクロマグロ、フグ、マダイ、真珠、ヒオウギ貝などが行われております。その中で、特にマグロ養殖と真珠養殖は盛んに行われ、平成25年度の生産量でマグロが1,463トン、真珠で4.2トンというふうになっております。

さて、赤潮等の情報につきましては、対馬水産業普及指導センターが定期的に観測を行い、関係漁協にその情報を流しており、赤潮の発生時、また、大雨による濁りの発生時においては、餌どめ等を行うよう養殖業者へ注意喚起を行ってきたところでございます。

今回の被害については、9月2日から竹敷、尾崎地先海面で赤潮が発生をし、9月9日からは有害プランクトンがクロマグロをへい死させる、1ミリリットル当たり50細胞という細胞密度のレベルになったことから、周辺養殖漁業者に対し、今回も餌どめ等の注意を行っていたところ、9月17日の大雨による河川等から流入する濁りも重なり、養殖マグロに多大な被害を及ぼしております。

美津島町西海漁協今里地区では、推定で1,345尾、約30トン、美津島町漁協尾崎支所で302尾、約6.8トン、合計被害額で約1億2,900万円のマグロがへい死したと聞いております。へい死魚の処理でございますが、これにつきましては、対馬クリーンセンターへ運搬、焼却などをしております。お尋ねの自然災害でへい死した養殖魚介類への処理費への助成はできないかということでございますが、自然災害でのへい死の処分につきましては、基本的には自己で行っていただきたいというふうに考えております。

また、漁業共済制度については、御存じかと思いますが、その中に養殖共済制度があります。災害に備え、漁業経営の安定のための制度であり、利用していただければというふうにも思っています。しかし、今回のような大規模な被害の場合、生産者及び関係漁協と改めて協議をしていきたいというふうに考えております。

次に、2点目の対馬病院近くの十字路の問題でございます。

この十字路は、5月14日から供用を開始をしました市道グリーンピア樽ヶ浜線の新設改良工事に伴い、交差点になったものでございます。道路改良に伴う新たな交差点の設置あるいは交差点の改修等の際には、道路交通法の規定に基づき、長崎県公安委員会に対し事前協議を行い、指摘事項に沿った計画申請のうえ、許可後工事施工となります。

当然ながら、御指摘の場所についても事前協議を行っておりますが、信号機等の設置の必要性は低いというのが県公安委員会の判断であったと報告を受けております。

また、信号機の設置、一旦停止の道路標識及び横断歩道等の設置については、公安委員会において、全県下の要望等を取りまとめ、優先順位を定めたいうえで順次整備されるものであり、直接市が設置することができません。

しかしながら、供用開始以来、交差点内における交通事故が7件発生しているという事実から、道路管理者として大変危惧しているところで、これはございます。その後、公安委員会とも協議を重ねてまいりましたが、現時点においても信号機の設置の必要性は認められませんでした。何らかの啓発の手はずが必要という観点から、交差点の新病院側に横断歩道を設置することとなりました。これに先立ち、歩道部縁石の切り下げ工事等が必要となりましたので、道路管理者である市が対応し、既に工事完了もいたしました。年明けには公安委員会において、道路歩道を設置される予定となっております。

この対応となった状況といたしまして、供用開始後6月10日に初めて事故の届け出があり、現在まで、先ほど申しましたように7件あり、7件のうち6件までが病院側から市道グリーンピア樽ヶ浜線へ交差点を直進する車が関わっております。どちらの車線が優先かわからないという事故当事者の申告等も勘案いたしますと、新病院側に横断歩道を設置することで、一旦停止の交通規制がかかり、大幅に事故の抑制ができると公安委員会が予測されております。あわせて取り締まりも行われることになるようでございます。

今後においても、横断歩道施工後の状況を注視しながら、公安委員会からさらなる改良等の指摘があれば、迅速に対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） まず最初の、市長、マグロのこのへい死した魚の処理ですけども、今対馬市にしても日本全国そうなんです、今、漁業後継者育成って、みんな格好いいことは言ってるんですよ。しかし、これが伴のうとる県・市はないと思いますよ、実際に、うたい文句だけであって。しかし、それをやっていくには、やっぱり何らかの手助けをしていかなくてはだめだということを私、言いたいわけなんです。

今、漁業後継者、日本の漁業就業者数は年々減少しており、平成25年現在で18万1,000人

です、日本全国で。そのうち、60歳以上が49%、65歳以上が35%で高齢化が進んでいる。そのため、水産庁では、新規漁業就業者総合支援事業を立ち上げ、毎年1,500人から2,000人の新規漁業就業者の確保を行っているという、水産庁もこういう動きしてるんです。

対馬でもそうですよね。いろんな意味で、何ですか、船つくったりしたときには、利子補給1%やってきましたよ。私たちが美津島町、6町のとて、たしか美津島町が先にやったと思うんですが、当時は船をつくるいうても、自分が計画して1年ぐらいいないと造船所が満杯でできない状態で、美津島町だけでも利子補給が2,000万ぐらありましたよ。今、全島で五、六百万でしょう、たしか、やってるのは。船つくる人がいないわけ、いないというよりも後継者が育ってないんですよ、どこでも。もうそれどころか、大型船は売却、売却で、船は減ってっていきますよね。

そういう中だから、私、今この基幹産業のマグロ養殖が、対馬ていいですか、対馬島内で美津島漁協が12社、西海漁協が7社、豊玉漁協で2社、上県町漁協で1社、合計22社で対馬のマグロ協議体があるんですけど、この売上高も推定というか、ある程度ですけど、全体合わせりゃ60億近くあるんです。彼らに言わせれば、私が知ってる範囲でも大体の1企業で、二、三千万の法人税払ってますよね。

やっぱ、そういう中で、そういう安定した所得が取れるから後継者が育つんですよ。マグロ養殖だけですよ、今、後継者が育ってるというの。これ言い過ぎになるかもわかりませんが。

そういう中で、この前の大雨災害のときに、大雨、あときはまだ赤潮で、今里地区は、赤潮の被害より大雨災害が多かったです。市のほうからも来てましたよ、水産課の担当が。それから振興局のほうからも課長が来ておられました。

対馬市のほうからも水産課の——名前言うても市の職員やから構わんと思うてるんですけど、佐伯君が来てました。県の振興課も斉藤課長お見えになってましたけど、ただ漠然と、僕もその魚のマグロの残パイを見たときに、二、三十キロのマグロが、私が11時ごろに行ったとき、もう途中からにおいがしてましたね、マグロ、今里の入り口で。

そのときで、もう800本ぐら上がったんですよ。あれ、トン袋というんですかね、海岸清掃とか、それは市のほうが、市ですか、県ですか、補助したというのはわかっています。この魚が死んだときに、市長がさっき答弁されましたけど、魚死んだら、保険に入っとけば、保険のほうから出るのは当然なんですけど、このマグロの保険は、金額も高いかわりに条件が悪くて、15%死なないと該当しないということですから、1億魚持ってる人が1,500万殺さないとか該当しないんですよ。それにかけて年間何百万掛け捨てるわけですから、一人も入ってない、個人的には。今、ほとんどマグロ業者も法人になって株式になってますけど。そういう悪条件といたらあれでしょうけども、条件が悪いんです、普通の保険にしたら。

そういう中で、私が言いたいのは、後継者を育てる育てる言いながら、何ですか、あんまり効果のないと言うたら、市長、気分が悪いでしょうけど、実際に活動してない利子補給なんですよ。

今、こういうときに、そういう生産者に意欲があって、そしてそのところは地区は餌なんかでもかなり、尾崎なんか1日に相当の量のマグロの餌が要ってますよ。それに携わる人、それにまたマグロの餌をやる人いうたら、相当の雇用もこれ出てるんですよ。そのところで私が言ったのがそこなんです。

ただ漠然に、市長、この対馬でつくってくれというんやなくて、これ平戸市にあるんです。平戸市は、へい死魚処理対策事業というのがあるんですね、交付税が。事業内容が赤潮、大雨による土砂の流入、異常な高水温等の自然災害、または油濁、油の事故など自己の責任によらない理由によりへい死した養殖魚介類の処分、補助対象者は漁協ですよ、当然。事業に要する経費で市長が認めるもの、補助金は対象経費の3分の2以内で1事業当たり66万6,000円を限度とする。これは平戸市の実際にやってる豊かな海づくりの補助金交付金なんですよ。

他市でできて何で対馬市ができないか、ましてや、これだけの水揚げがありながら、私はおかしいと思うんです。当時に、市のほうに来られて、県のほうも来られて、何らかの動きがあつてらんかなと思って確認したら、一切そういう動きがあつてないんですよ。

私、これおかしいと思うんですよ。これだけ頑張つて、対馬を盛り上げていっとる基幹産業に、魚の死んだやつに補助くれとかいう人はいないんです。そういう、処理をした臭い腐った魚を、安神だけではできないから本土のほうに運んだりしとるやないですか、それに対する補助をつけてもらえないでしょうかと言ってるんですよ。市長、どうですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この養殖の問題につきましては、捕る漁業から育てる漁業ということで、大変、今後対馬にとっても大切な漁業の一分野だというふうには当然位置づけてはおります。

そういう中、養殖共済という制度が、今、議員がおっしゃられるように、入りづらいとか、1尾当たりの単価が、保険の単価が高いとか、いろんな制約がいっぱいこの制度にはあります。これらの改善のことも当然考えていかなくてはいけないことだと思っておりますし、今、平戸の例を挙げられましたが、私のほうもその点は不勉強であります。早急にそちらの勉強もさせていただきますが、関係漁協、生産者の方と先ほど申しましたように、改めてこの問題について協議をしていきたいというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） 市長、ぜひ前向きに検討してくださいよ。魚の、死んだ魚のそれを見てくれということは、業者一業者もないんですよ。ただ、あんなに、やっぱり二、三十キ

口のマグロが800本も900本も陸に上げられてる光景を見てみんですか。やっぱ、我々同業者としては胸が痛みますよ、金額的にわかりますから。もう何千万やないですか、1匹10万にしても8,000万ぐらいはいってるんですよ。

その魚の処理に、安神だけではやっていかないから本土に送ったりしてるわけですよ、トン袋で。その補助というのは、さっき言ったように、平戸のほうは、市長が認めたものには限度額66万6,000円ですか、これ平戸市は設けてる。他市もありますよ、こういう、事故というか、自然災害の補助は。

たまたま、私はこれ幾つも挙げるよりも、平戸のやつを市長にわかりやすく言ってるんですけども、他市でできて、まして、対馬は水産の島やないですか。真珠と先ほど言われたように、この魚類養殖、今、魚類養殖といっても、ハマチもだめ、タイもだめ、トラフグやってる人ほとんどわずかですよ、私もトラフグしてましたけど。もうほとんど安定基盤に乗ってるのはマグロだけですよね。

マグロに携わってる、先ほど言いますように、雇用面、いろんな組合に対する手数料、餌代に対する手数料、かなりの量ですよ、組合だけじゃなくて餌を取り扱っとる漁連さんにしても、全てがかなりの潤いですからね。それに対する死んだ魚の処理を何とかしてくださいということをお願いしてるんです。

市長は、今、前向き検討をされましたけども、市長、今、対馬の現状というのはそれは私より詳しいと思いますけど、今12漁協かな、23年のときは12漁協やった、今11、12かな、12漁協のうちで、そのときは4,500名の組合員がおったんですよ、おるんですよ。それで、20歳から29歳の従事者というか組合員数は4,500のうち71名しかいないんですよ。20歳未満は対馬島内で2人です。

これが今増えてきてるのが、30から39、40、207名、40から50までが361、我々の年代になってきたらほんと増えて約3,000人近く、2,993とかになってるんで、もう高齢者ですよ。

やっぱ、若手育成、後継者育成するためには、やっぱ何らかの形で、自然災害ですから、市長がさっき言ったように、赤潮が出た場合には餌をとめるとか、方法はあるんです、漁場をかえるとか。しかし、大雨災害の場合は、この前の今里地区のやつは赤潮よりも大雨なんですよ。大雨の場合、生け簀も移されない、餌とめることも不可能やないですか。

そういうときの、生産者が痛手を負ってるときに、市がただ漠然と、茫然と指くわえて見てるんやなくて、何らかの処理費ったら、私は限られた金額と思うんですよ、何千万も要るんならいろいろ支障を来すでしょうけど、平戸市だって66万6,000円であの市でもやってるわけですよ。それを市長、重視してもらって、やっぱり、この対馬で住んでる漁業者の若手が、安心し

て事業がされたり、生活がされるようにしてやるのも、私は行政だと思うんです。

痛手をこうむっとるときに、お水一つでも違うやないですか。喉が渴いてるときに、お水でも持っていったらありがたいですよ、普通のお水よりも。それを私は例えで言いたいわけです。

市長、もう一回、そのところを強く要望したいんですよ。市長の答えをお願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） へい死後の処理費について、生産者、当然ながら関係漁協と、どのような制度として作り込んだがよいのか、先ほど言いますように、養殖共済との問題もありますので、それらのことも踏まえ、一緒に協議をしていきながら、処理費のこともあわせて協議を進めていきたいというふうに思います。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） ぜひ前向き検討のほうをよろしくお願いします。後ろに座ってる方もよく聞いとってお願いしますね。

そしたら、2点目の病院問題ですけど、信号機をつけるのは、何か公安委員会のほうはあまりいい返事じゃないということですけど、ちょうど私たちが厚生委員会で向こうに政務調査行ったときも、ちょうどその日に事故とったんですよ、看護師さんが。軽乗用車がもうだめになったということですけど。僕は6件、6件と思とったら7件あつとるわけですね。あれだけの車が行き来したら、先ほど言うように、職員だけで444名ですよ。来患が、1日に利用患者数が、結構大きいだけに、5月が平均が576人、6月が673、7月が672、8月が670名、そして9月が735、この10月はやっぱり716.7になってるんですね。やっぱり一日に利用患者数というのが約700名程度が今の対馬病院を利用されてるわけなんです。

当然、そうすれば車も動くやないですか、ですね。ということは、今度はまた来春になれば、今の手前に職員の宿舎というか、先生の寮とか看護師さんの寮がオープンしますね、保育所もできるんですけども、その先には対馬の杜って福祉の施設がありますよ。

それを考えたときに、あの時間帯に行ってみんですか、本当にすごい車ですよ。時間帯であそここのところすれ違うとき、ある人が数えたら300幾らか、時間帯でつながって、ずっと時間帯に来ますよというのを聞きしてるんですけど、あの危ないところに、今度は何か横断歩道ができてるんですね、市長、できてるんでしょう。その横断歩道には、もちろん手押し信号機とか何かつけるんですか、つけてるんですか。お願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） あくまで、病院側から樽ヶ浜のほうに直進する車が事故の原因になってるということで、そこに一定の抑止をしていただくために、横断歩道を一カ所入れ込むというふうな今の公安委員会の方向性であります。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） そしたら、横断歩道ができるということは、そういう公安委員会でしようけど、市のほうからも、じゃ、今後やっぱり利用患者数はそんなに減るような推移やないし、経緯やないやないですか。おまけに保育所もできるんですよ、あそこ、保育園か。

そしたら、市のほうからでも、手押し信号機ぐらいつけてくれんかという要望はできないんですか、これ。お願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この協議の中での報告でも上がってきましたけども、赤点減とか黄色点減とか、そういうものもできないのかというふうな協議もこちら側からさせていただいたところでもありますけれども、現時点においては、それもままならない状況でございますが、先ほど、病院側から直進する交差点の手前側に横断歩道を近々設置するという方向性であります。

そして、来年度の要望として、私どもは、今の、信号機が一番欲しいんですけども、現時点では難しいという判断でございますので、ならば、今度は国道側から入ってきて、交差点に進入する際のところに横断歩道を設けてほしいというふうな要望を、市のほうからも上げさせていただいているところであります。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） ぜひ、なかなか信号機というのはつけにくいし、返事しないんです。私は、過去形で自分の自慢やないですけど、高浜の中対馬病院の前の信号機、あれ私が自分で言い出して、あそこ2件ぐらい——結構平たんですけど、斜めになつとるから、死亡事故はなかったんですけど、結構事故が多くて。やはり当然あのときは町ですから、町のほうで何回もお願いをして、そしてあそこに信号機つけたんですよ。

だから、公安委員会にしてもどちらにしても、ぱっとはいいですよというのはなかなか言わないから、市のほうから、やはりこれだけの患者数と車の台数いうたら、あの駐車場すごいやないですか。その死亡事故があつてからでは遅いから、やはり今もうオープンして何カ月でもう7件もあつてるわけでしょう。何カ月で——市長まだ7カ月ですよ、7カ月で7件っていったら、月にしたら1件ずつ事故があつとるということになるわけですよ。そういう十字路がありますか、対馬ではないですよ。一番危険な十字路と思うからこういう要望しとるわけですから。

やはり、市のほうでは、その公安委員会がそんな言い方をしようが、やっぱり、断固としてつけてくれというような形でして動いてもらって、まず横断歩道には手押し信号機ぐらいつけていかんと、保育園は来年はオープンするは、いろんなことで人通りも多くなるわけですから、そういうふうに市長お願いしますよ、これ。何とかしないと、向こうの言いなりで、だめだだめだじゃ、私はだめだと思うんで、市長、そこんとこ、くれぐれも強く要望しておきますよ。市長、いいで

すね、お願いしときます。

まだ時間が17分残ってますけれども、もう市長のほうもそういう形で理解できたでしょうから、これで私の一般質問は終わらせていただきます。

くれぐれもよろしく願いしておきます。ありがとうございます。

○議長（堀江 政武君） これで、大部初幸君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 昼食休憩とします。午後は1時から再開します。

午前11時34分休憩

午後0時59分再開

○議長（堀江 政武君） 報告します。大浦孝司君から早退の届け出があっております。

再開します。2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 皆さん、こんにちは。会派つしまの小島徳重でございます。

通告した質問に入ります前に、対馬での最近の話題について、少し触れさせていただきたいと思います。

12月4日発行の対馬新聞の3つの記事が目にとまりました。1つは、防衛大臣の対馬視察です。陸上自衛隊対馬駐屯地創立35周年記念行事に出席され、あわせて対馬の陸海空の部隊を視察されました。その折、第4音楽隊の演奏会にも、3時間あまり出席をされました。そして、また記念式典の半日の大臣の動きに感服しました。

式典での隊員をねぎらう言葉の重み、パレード後の市民との触れ合いはもちろん、28日の美津島体育館での音楽祭では、休憩時間、終了後の時間を割いて、対馬市民の子どもからお年寄りまで、いろんな多くの方々に声をかけられて、市民の話に耳を傾け、市民と写真におさまっておられました。

私は遠くから見ただけなんですけども、政治家のあるべき姿、その人間性を感じさせる振る舞いに心が温まりました。

2つ目は、平成27年度農林水産祭における対馬かまぼこ店の天皇賞受賞です。これは市長からも、行政報告からでございましたけども、対馬の水産業界、対馬市民にとって元気の出るニュースでありました。島居さんの商品開発にかける熱意と創意工夫に敬意を表し、お喜びを申し上げます。

3番目は、対馬南警察署の石塚復元問題です。11月6日から4週連続で対馬新聞で詳細な報道がなされたことで、他紙にも報道があり、市民の関心が高まり、市民団体の署名活動も起こり、市民、議会、行政が一体となった対馬の思いが県警本部を動かし、元どおりの石垣積みが復元さ